

試験時間 90分

注意事項

- 1 解答用紙、草稿用紙ともに受験番号と氏名の記入を忘れないこと。
- 2 問題用紙、草稿用紙は解答用紙とともに机上において退出すること。持ち帰ってはいけない。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

われわれが作るいろいろなイメージというのは、簡単に申しますと、人間が自分の環境に対して適応するために作る潤滑油の一種だろうと思うのです。つまり、自分が環境から急激なショックを受けないように、あらかじめ個々の人間について、あるいはある集団、ある制度、ある民族について、それぞれイメージを作り、それを頼りに思考し行動するわけであり、そういうイメージは、他の人間あるいは非人格的な組織のうごき方に対するわれわれの期待と予測のもとになるものであります。つまり、ある程度持続的でないとイメージとしての意味はない。持続的であるところにイメージの役割があるわけであり、イメージがあまり本物から離れ、くい違いがはなはだしくなると、潤滑油としての役目を喪失する。つまりなんらかの機会に「案外」な行動とか、予想外の出来事に直面して、その人やそのものについて新しくイメージをつくりなおす必要が生まれてくる。こうしてわれわれはイメージを修正あるいは再修正しながら、変化する環境に適応していくわけであり、

ところが、われわれの日常生活の視野に入る世界の範囲が、現代のようにだんだん広くなるにつれて、われわれの環境はますます多様になり、それだけに直接手とどかない問題について判断し、直接接触しない人間や集団のうごき方、行動様式に対して、われわれが予測あるいは期待を下しながら、行動せざるをえなくなってくる。つまりそれだけわれわれがイメージに頼りながら行動せざるをえなくなってくる。しかもその際われわれを取り巻く環境がますます複雑になり、ますます多様になっているかというところを、われわれが自分で感覚的に確めることができない。つまり、自分で原物と比較することのできないようなイメージを頼りにして、われわれは毎日毎日行動しあるいは発言せざるをえなくなる。こういう事態になっているんじゃないかと思えます。いいかえればわれわれが適応しなければならぬ環境が複雑になるに従って、われわれと現実の環境との間には介在するイメージの層が厚くなってくる。潤滑油だっただけでだんだん固形化して厚い壁をつくってしまうわけであり、

(中略)

つまり本物自身の全体の姿というものを、われわれが感知し、確認することができないので、現実にはそういうイメージを頼りにして、多くの人が判断し行動していると、実際はそのイメージがどんなに幻想であり、間違っているとしても、どんなに原物と離れているように、それにおかまいなく、そういうイメージが新たな現実を作り出していく。イリュージョンの方が現実よりも一層リアルな意味をもつという逆説的な事態が起るのではないかと思っております。

思想史にはこういう例がしばしばある。マルクスが、「私はマルクス主義者でない」と言ったのは非常に有名な言葉であり、すけれども、マルクスのように、非常に膨大な著作を書き、自分の思想というものをきわめて体系的な形で展開した学者でさえ、マルクス主義あるいはマルクス主義者についてのイメージが原物から離れて自立的に発展していくのをどうすることもできなかった。そこに私はマルクス主義者でないという彼の嘆息が生まれるわけであり、いわんや今日のように、世界のコミュニケーションというものが非常に発展してきた時代でありまして、大小無数の原物は、とうとう自分についてのイメージが、自分から離れてひとり歩きし、原物よりもずっとリアリティーを具えるようになる現象を阻止することができないわけであり、むしろ或る場合には、原物の方であきらめて、あるいはその方が都合がいいということからして、自分についてのイメージに逆に自分の言動を合わせていくという事態がおこる。こうして何が本物だか何が化けものか、ところがこういう世界的な傾向と同時に、日本では特にそういう化けもの横行を許す事情があるのじゃないか、われわれと環境との間につくるイメージの壁を厚くする条件があるのではないかという気がするのであります。

その問題を考えるために、ちよつと話をかえまして、日本の社会なり文化なりの一つの型というものを非常に図式化して表現してみたいと思つて、私はかりに社会と文化の型を二つにわけて考えることとします。一つは妙な言葉であり、ササラ型といひ、これに対するもう一つの型をタコツボ型と呼んでおきます。ササラ型というのは、御承知のように、竹の先を細かくいくつも割つたものです。手のひらでいへばこうふううに元のところが共通して、そこから指が分れて出ている、そういう型の文化をササラ型というわけであり、タコツボ型というのは文字通りそれぞれ孤立したタコツボが並列している型であります。近代日本の学問とか文化とか、あるいはいろいろな社会の組織形態というものがササラ型でなくてタコツボ型であるということが、さきほど言ったイメージの巨大な役割ということと関係してくるんじゃないかと思つておきます。

(丸山真男著 「日本の思想」 岩波新書)

問一 この文章に、二〇字以内で適切なタイトルをつけなさい。

問二 現実とは違ったイメージを持った身近な例について、四〇〇字以内で述べなさい。

問三 「イメージ」と「タコツボ」という言葉を入れて、現実を考え、行動する上でどのようにすればよいか、六〇〇字以内で考えを述べなさい。